

奨励賞

心の虫

川崎市立川崎中学校 3年 田中 優菜

「心の虫を受け入れて。」

これは私のおばあちゃんが、小さい頃から泣き虫だった私に言った言葉です。

そんな私は今も変わらず泣き虫ですが、この言葉のおかげでだいぶ泣く回数が減ったように思います。

私は小さい頃からかなりの泣き虫でした。転んだらすぐ泣いて、おもちゃを買ってもらえなかったらまた泣いて、友達と喧嘩しても先に泣くのはいつも私で、しまいには、夜トイレに行くのが怖いだけで泣いてしまうような子供でした。私がいまにも泣くので、幼稚園の頃「小学校に入ってもそんなに泣いてたら、みんなに赤ちゃんみたいだと思われちゃうよ。」とお母さんに呆れられてしまうほどでした。

そんな泣き虫がすぐ治るわけもなく、小学校に入ってから私はよく泣きました。むしろ泣く回数は多くなっていったかもしれません。今までのように声を上げて泣くことは少なくなっていました。その分あふれてくる涙を抑えようと人知れず泣いていたのを覚えています。

それからしばらくたった、小学校3年生の夏休み。おばあちゃんの家で、私はまた泣いていました。つまらないことで怒られただけなのに、また涙が止まらなくなってしまったのです。

布団に丸まりながら泣いていると、私のところにおばあちゃんがやってきました。おばあちゃんは「そんなところで丸くなってないで、出ておいで。」と言ってくれましたが、私は小学3年生にもなって、自分が泣いているのを見られることが恥ずかしくて「一人の方が楽しいし、ほっといて。」と言ってしまいました。でも、その言葉を聞いたおばあちゃんは怒るわけでもなく、「これは、心の虫の仕業だね。」と、ポツリと呟きました。私は予想外の言葉にびっくりして、つい「心の虫って何。」と聞き返しました。それにおばあちゃんは「人の心の中に住んでいる虫のことだよ。」と答えました。私はいきなりそんな話をされてぼかんとしてしまいましたが、おばあちゃんは「あなたの心の中には虫が住んでいるのよ。」と言った後にその虫について話してくれました。

人の心の中には色々な虫が住んでいるということ。それは人によって違うということ。すぐに怒る人には怒り虫、気が弱い人には弱虫、そして私のようにすぐに泣く人

には泣き虫が住んでいるということ。私は泣き虫という言葉を知ってはいたもののその言葉の意味までは考えたことがなかったので、そのことを知ってなんだか不思議な気持ちになりました。

そこで、おばあちゃんに「私の心の中にある泣き虫を追い出せば、私はすぐ泣かなくなる。」と聞くと、おばあちゃんは首を横にふって「泣き虫を追い出すのではなく、受け入れてあげるんだよ。」と言いました。泣き虫をこれが自分だと受け入れてあげることによって、泣き虫が悪さをしなくなるというのです。

それから私は、泣き虫をできるだけ受け入れていくようにしました。泣きたい時には、涙を抑えようとするのではなく、気持ちが落ち着くまで思いっきり泣くようにしました。すると、ちょっとしたことでいちいち泣いて疲れてしまうのが馬鹿らしくなってしまって、だんだん泣く回数が減っていきました。そして、小学校を卒業する頃には泣き虫を受け入れることによって、ほとんど泣かなくなっていました。

ちなみにここまで、私は泣くことがいけないというような話をしてきましたが、何も泣くことが悪いとは思っていません。むしろ、嬉しい時やほんとに悲しい時には泣くことが必要だと思います。そこまでを踏まえるのが泣き虫を受け入れることなのだと思います。実際、試合に負けて悔しい時や卒業式で悲しい時、ドラマを見て感動した時には思いっきり泣きました。

みなさんの心の中にもきっと色々な虫が住んでいます。もし、自分の思い通りに気持ちを抑えることが出来ないと悩んでいる人がいれば、自分の心の中に住んでいる虫の存在を認めて受け入れてあげてください。そうすればきっと、もっと自分らしく生まれ変わることができるはずです。

ただその反面、最近心の虫を追い出してしまう人が多いように感じます。そのうえ感情を殺して無表情でいる方が社会においては大人っぽくてかっこいいというような風潮が広がってきているような気がします。本当にそうなのでしょうか。私はそうは思いません。なぜなら、心の虫を受け入れている人の方が人間性にあふれていて、より魅力的に見えるからです。なので私はこれからもっと泣き虫と一緒に成長していきたいです。